埼玉神社廳報
第百七拾九号

神話の旅　磯堅城神籬（皇大神宮）を最初に別殿として祀ったとされる桧原神社にて

「彩の国お宮宣言」始末記 ― 三期九年を省みて ―

庁長　薗田　稔

平成の御世も目出度く十九歳を迎えて、天皇・皇后両陛下におかれては愈々ご機嫌麗しく、また皇太子ご夫妻をはじめ皇室ご安泰の趣きを拝して、まことに欣快に耐えないところ県下斯界の諸兄姉とともにお慶び申し上げたい。

さて、本県神社庁も今月をもって執行部役員の任期満了を迎えることになり、かくいう小職もこの際、庁長の任を辞するにあたって過去三期九年の歩みを省みておきたい。

平成十年度より、今は亡き高麗澄雄先代庁長の跡を請けて執行部をお預かりして以来、任期を三度重ねるなかで、その都度いわゆる「彩の国お宮宣言」を掲げて活動の指針としてきた。すなわち第一期では「一　森と町づくりをすすめよう。二　子供と家庭を大切に考えよう。三　英霊と先祖を大事にしよう。」第二期では「一　神宮の崇敬を高めよう。二　子供と家庭を大切にしよう。三　英霊と先祖を大事にしよう。」そして第三期では「一　神宮のご遷宮を成功させよう。二　神社総代との連帯を進めよう。三　家庭と子供を大切にしよう。」という指針であった。多少の改訂を加えての三項目であったが、一貫するところ、県下の先人たちが豊に守り伝えてきた地域の精神文化を、厳しい社会変化に耐えて継承するための神社活動を目指したつもりである。なかでも思い出に残るものは、神社庁の財政と人事の透明化に基づいた活動の推進、たとえば県護国神社への奉賛、「お宮と親子の集い」推進、教化委員会・関係諸団体の相互連帯と活動の活発化など。本庁との関連では一昨年の愛知万博での「森に生きる日本文化」企画出展参加であったろうか。

しかし、いま省みるに、あらためて成果の乏しきを憂い、力の及ばざるを悔いるのみ。望むらくは、後を託すべき清新な庁長以下新執行部による強力な事業推進である。

発行
さいたま市大宮区高鼻町1-407
埼玉県神社庁
電話048(643)3542番
編集
庁報室
印刷
アサヒ印刷㈱

座談会

氏子から見た神棚奉斎

《出席者》※敬称略順不同
手島　孝（秩父市）
中原　恒男（秩父市）三原産業㈱会長
守屋　利夫（本庄市）竹並建設㈱
取締役リーダー
荒井　誠樹（本庄市）
細田　知秀（鳩ヶ谷市）
細田　京子（鳩ヶ谷市）
《司会》
網野　直久（庁報編集長・秩父神社権禰宜）
《庁報編集室》
竹本　佳徳（庁報編集室長・神社庁副庁長・
川口神社宮司）
髙橋　寛司（編集委員・神社庁学芸員）
朝日　則安（同右・三峰神社権禰宜）
中山　真樹（同右・金鑽神社禰宜）
嶋田土支彦（同右・氷川神社権禰宜）

司会　皆様本日は、大変お忙しいところ、ご参集を賜り、誠に有り難うございます。

この座談会の趣旨でありますが、近年は神棚をお祀りする家庭が減少傾向にありまして、この問題に神社界としてはどのように取り組んで行くか、その対策が大きな課題の一つになっております。そこで、一般の方のご意見なりお考えをお聞かせいただいて、神職各位のこの課題に対する対策の糧として供することが出来ればと考えております。

また、神棚を設置する施工の立場から、我々神職よりもより広く状況を把握されていると思われる建築関係の方にも一名お越しいただいております。

皆様それぞれのお立場で、神社なり神棚に対するイメージ、お考えなどをお聞かせ願えればと思います。

差し当たって秩父からおいでいただきました手島様いかがでしょうか。

手島　うちは昨年、七十年来の家を建て替えまして、その際、昔からある神棚をそのままお祀りすることにしました。古い神棚で、掃除をしていたら祖父が出征した時の武運長久のお神札が出てきました。新調したほうがいいのかとも考えたのですがそのままお祀りすることにしました。

いつも思っていたのですが、皇大神宮様の御神札の表に掛かっている紙の扱い方の問題ですが、これは、どうしたらいいんでしょうか。

司会　この紙は本来、汚れを防止するものですから、取ってしまって構いません。

手島　年末に、神社さんからお正月様のセットを受けると、中に説明書きが入っていますが、この辺りのことについては触れられていないので、お尋ねしました。

司会　先だって埼玉県神社庁では、「鳥居付おふだ立て」のプレゼントキャンペーンを企画致しました。このキャンペーンにご応募いただいた方に、抽選で神棚に代わる「鳥居付おふだ立て」をプレゼントするというものです。

実は、手島様はこのキャンペーンにご応募いただいておりまして、見事に当選を果たされました。（笑）

手島　はい、家を建てた折、自分の部屋に神棚がなかったので、いただいた「おふだ立て」に御神札をお祀りしております。

あれは五〇〇人位あったんでしたっけ。

髙橋　そうです。一回目の締め切りでは五〇〇人が当たりました。

手島　こういう形で神棚がない家庭にも広報をするのはいいことだと思います。

ただ、年末に神社さんから御神札を受ける時には、案内のパンフレットを一緒にいただくんですが、普段参拝に行った時には、こういったパンフレット類がないんですよね。

一般の人が普段参拝に見えた時に、家に持ち帰って神棚の祀り方の参考に出来るようなものを置いていただけるとありがたいと思います。都内の神社に参拝すると、「国旗を揚げましょう」とか、「今月のお言葉」のような簡単なチラシがありますが、埼玉県の神社でも、このようなパンフレット類を積極的に活用した方がいいと思います。いずれにしても、御神札をもっと広く受け

入れてもらうということであれば、お参りに見えた方にもっと知ってもらうように、広報活動に力を入れれば、段々裾野が広がって行くような気がします。

司会　ありがとうございました。では次に細田様、今日はご夫妻でおいでいただいておりますけど、ご家庭をお持ちの立場から、ご意見なりご所見がございましたらお願い致します。

細田（京）　うちは丁度二年前に宮司さんに地鎮祭をしていただいて、新築したんですね、その際に設計士さんにお願いをして、その中でどうしても譲れない条件の内の一つとして、神棚を作って下さいとお願いしました。ところが、家のトーンを整えると、注連縄を張るという状態がマッチしなかったんですね。ということで、宮司さんからいただいた神棚のミニチュアセットのようなもので妥協してしまいました。私の実家も、それよりもう少し前に建て替えまして、ハウスメーカーにお願いしたんですけれど、やはりその際にも神棚を作って下さいとお願いしました。でも、なかなかうまく話が進まず、私の父が大工だったんで自分達で無理やり板を渡して作ってしまったんです。偶々大工だったんで、簡単に作業が出来ましたが、今の住宅の仕様というか雰囲気に注連縄をドーンと張るのは難しいのが現状でした。

　で、自分で言うのも何ですが、雑誌に載るようなちょっとモダンな家なので、その雰囲気と注連縄や榊がマッチしないんじゃないかと思うんです。

　私たちの気持ちとしては、氷川様にお守りいただいているという思いはあるんですが、インテリアとか絵として見た時に、合致しなかったんですよね。

　もちろん毎年御神札はいただいてお祀りしているんですけれど、こういう例えは本来はよくないのかもしれませんが、壁に掛ける絵画などのような形であれば、現在の洋間にも反映させることができるんじゃないかと思うんですけれど・・・

司会　本日お越しのハウスメーカーさんで今までこのようなご相談があったかどうか、又その時のご対応はどうされたのか、お聞かせいただければと思います。先ず三原産業の中原様いかがでしょうか。

中原　私ども住宅を建てておりまして、若い人のご意見を多く取り入れ、多くの場合洋室が多く、和室は一戸に一室ぐらいです。今おっしゃるように、洋室の雰囲気と合わないものですから、和室に神棚を作るようにしております。

　中には「神棚はいりません」という人もおりますが、着工時に地鎮祭をされた方は、秩父神社から小型のお社を受けますので、それをお祀りいただいております。神棚は別途注文で、建具屋さんにお願いして、お部屋の雰囲気に合うように作っております。

　我々からすると、神棚は家の中心に作るという風に考えておりまして、事実私も、うちの神棚は押し入れの上に一間の神棚用の場所を作りまして、大きいお社を入れてお祀りしてあります。地鎮祭をされる方はほとんど作られます。長い将来に亘って何か災いでもあってはいけないので、地鎮祭だけはしたほうがいいですよと極力勧めております。

　秩父は、秩父神社さんの盛大な夜祭もあるので、他の地域と比較して神棚を作る人は多いと思います。

司会　ありがとうございました。今の三原産業様のお話の中で、和室に神棚を設けるように勧めておいでということでしたが、参考までに、細田様の神棚をお作りになった部屋は洋室なんですね。

細田（京）　はい。

司会　和室のお部屋はお有りにならない…。

細田（京）　はい。

司会　最近の住宅事情を考えると、今後は細田様のお宅のように、和室がない家が増えていくんだと思いますが、竹並建設の守屋様いかがでしょうか。

守屋　私も普段、住宅をお建てになるお客様と設計・営業に携わらせていただいているんですけれど、最近の傾向として和室が減少していることは事実だと思います。

　そこで、神棚を設ける時にどこにするかという相談は受けます。すると、鬼門は避けましょうとか、上を人が通らないところにしましょうとかいう話になる。現在の住宅は殆んど総二階なので、こういった事も

考慮すると、お祀りする場所が少なくなっていると感じています。

和室自体少なくなっていますけれど、和室にしても、最近は近代的なものというか、鴨居の高さも通常ですと、内法約一メートル八〇センチのところに長押を設けて、そこに神棚を吊りますが、天井高をよく検討しないと、御客様が今お持ちのお社、あるいは買い求められたお社が入らないケースも出てきます。

私も自分の家を建てた時に会長さんのように押入れの上にスペースを取ったんですが、自分で買ってきたお社の千木が天井一杯で、ぶつかる寸前でした。この経験から御客様との打ち合わせの中で、天井の高さが取れなくて入らなかったら申し訳ないなと思います。棚板の高さも御客様とよく打ち合わせをしないといけないなと感じています。

若い方でも、神棚をどこに付けましょうかとご相談をいただく方もいます。また逆に年配の方でも必要ないと言われる方もいます。

家を建て替える方とか、リフォームされる方とかは、大体以前からお祀りしていますので、設けなければならないという意識がありますが、新たに建てられた方というのは、年配の方でも意識が薄いように感じます。

地鎮祭については、土地の神様にお願いをして災いがないようにしたほうがいいというお話をして、ほぼ一〇〇パーセントさせていただいております。

司会　ありがとうございました。先程の細田様のお話の関係で、今すべてのお部屋が洋室のお宅が増えているとのことでしたが、ご両社様で実際そういう例があったかどうかということと、もしその例があった時、神棚を設けられたかということをお尋ねしたいのですが。先ず三原産業様。

中原　洋室に神棚を作った例はいくつかあります。ただ、大部分はやはり和室に作っております。

まあ、確かに細田さんのおっしゃるように、洋室ですとちょっと雰囲気が…。

細田（京）　たぶん、これから高齢化社会になっていって、部屋の形態としては、和室というのは高齢者にとって決してやさしい環境だとは言えないと思うんです。立ったり座ったりということが、高齢者にとってはかなり負担になってくると思います。ですから、これから益々洋室がメインになっていくと思うんですね。

そんな中で、信仰心がなくなっていくかといえば決してそんなことはない、むしろ逆になっていくと思います。そこにどのように組み込んでいくのが、知恵を出すところかなと考えます。

司会　ありがとうございます。竹並建設様は、今までのご経験からいかがでしょう。

守屋　そうですね。今まで何度か洋室に神棚を取り付けたことがあります。棚板だけにするとか、あるいは雲板や柱を付けないで場所を確保する形で作ったことはありますけれど。

まれにではありますが、洋室だけの家を建てられる方もいます。

中原　洋室にマッチするような神棚を我々が考える必要がありますね。先程細田さんがおっしゃったように、確かに今までの神棚をそのまま洋室に持ってくるとちょっと雰囲気に合わないという点がありますね。

それと神様をお祀りする場所といいますか、位置といいますものが、ある程度あると思いますので、それを考慮しながら洋室の神棚といいますか、神様をお祀りする…。さっきおっしゃられたような、壁掛けの御神札が納まるようなそういうものが必要かなあと、お話を伺いながら思いました。

司会　ありがとうございました。話が少し転じましたが、荒井様いかがでしょうか。神棚に関する思いや、お祀りされている状況などについてお話いただければありがたいのですが。

荒井　自分の家は先祖代々から住んでいる土地に建っていまして、八年くらい前に新築したんですけれど、その時には一間くらいの神棚があったんですね、その時は注連縄を付けられたんですけども、いざ家を建てるときに、カーテンとか照明とか、内装関係のことばかり気になり、神棚のことは頭から消えてしまったんですね。古い家ですから祖先のことを考えて仏間は作ったんで

すけれど、神棚のことは一切忘れてまして、最後に神棚がないという話になりました。そこで、そのハウスメーカーさんには、オプションで神棚はどうしますか、という話は一言欲しかったと思います。というのは、今の神棚は板だけで注連縄が張れない状態なわけです。いつもどうしようかなと悩んで、結局付けないままでいます。最初にハウスメーカーさんからお話があったならなあという思いは今もあります。

会社でも、神棚をどうやって飾ったらいいのかということを聞かれます。自分は中山君が友達のこともあり、会社の人によく聞かれるんですけれども、一般の方は締め方さえわからないという雰囲気はあると思います。

それで、御神札が年末に来るんですけれど、説明書きがないんですね。先程のお話ですと地域によってはあるようですが、うちの会社がある高崎には入ってないので、付け方が全く分からないと皆さん言われるので、その点を神社関係の方で考えていただければありがたいなあと思います。

会社の同僚も、神棚をお祀りしたいんだけれども、やり方が分からないから、段々遠ざかってしまうと言っていました。

司会　はい。ありがとうございました。只今一通りお話を伺ってきたところなんですけれども、冒頭のお話の手島様が神社庁の企画の中で「おふだ立て」をお当てになった件で、今ご自身のお部屋の中でお祀りされているわけですね。

手島　はい。始めは神宮大麻を祀ろうと思ったんですけれども、家の神棚に既にあるんで、秩父神社さんの御神札をお祀りさせていただいております。

「自分だけの小さな神社」というキャッチコピーだったと思うんですけれど、毎朝手を合わせてみると気持ちも落ち着きますし、お蔭様で今日一日が無事安全で仕事が出来ますようにという気持ちでいつも拝んでいます。

先程からお話が出ていますけれど、お祀りの仕方が分からないという声が結構あるんですよね。この「おふだ立て」にはお祀りの仕方が詳しく載っていたんですけれども、うちの神棚も正直いうと注連縄が張ってないんです。理由は、飾るところがないんです。棚は大工さんに作ってもらったけれど、注連縄を付けるところがない・・・。

注連縄っていうのはここから聖域ですよという印でしょうから、あった方がいいと思うんです。何か注連縄に代わるようなものはないでしょうか。

中原　私共で注連縄用のものを作りました。それはお社の前に棚より少し幅の狭い台に太い支えを付けまて…。

司会　そうすると、柱を上から吊っているのではなくて、下から立てているわけですね。

中原　そうです。もちろん天井まで届いておりますけれど、下から支えているわけです。

司会　貴重なご意見ありがとうございます。

手島　先程から、洋室の神棚の話題が出ていますが、少し前に神社さんから、この「家庭の祭りの手引き」という小冊子をいただいたんですけれども、これには、自分で作った壁に掛けたのがあるんですよね。

細田（知）　あの、自分で作りましたとありますが、こういうのは実際どういう風に解釈したらいいんですか。こんなことしていいのかなと思ってしまうんですけれど。

神棚をお祀りしたいという気持ちは我々民間人としてもあると思いますが、これはやっちゃいけない、こんなことをしたら神様に失礼だろうと思って控えてしまう人が結構いると思うんですね。ですから、自分で作ったりしていいのかと考えたりするんですが…。

で、家内の家は代々神棚などに対する信仰心が結構ありまして、私自身は、核家族で育って、造成地で近くに神社もないようなところに住むという環境だったので、そのような信心は全くなかったんですけれども、結婚してこちらの実家に行って、神棚に榊を上げてというところを始めて見て、これは何とも気持ちのいいもんだなと感じ、是非自分でもやってみたいし、そういうところに関心をもちたいなと思ったんですけれども、そこで、どうやっていいか分からないし、仕来りも分からないところで、やってしまうのは、ちょっと怖いというか、失礼なのかなと思いました。

司会　神棚をお祀りするのは形式よりも心持

のほうが大事だと思いますが、ここで神社庁の学芸員でもありますので、髙橋さんに実際の事例も含めてご説明いただこうと思います。

髙橋　はっきりいってある意味自由なんです。宮形を納めなければならないという規定もありませんし、御神札を大切に祀られるという環境さえあればいいと思います。一定の範疇のなかであれば、比較的自由なお祀りの仕方が可能であると思います。

　ミニチュアのお城のようなものの中にお祀りしたからといって、神様がお怒りになられるようなこともありませんし、インテリア的にマッチするならば、それも可だと思いますし、また額のようなものが考案されていることも聞いています。

　ですから、御神札をお祀りするということを発展的に考えれば、お部屋の構造に捉われなくてもいいんだと思います。

細田（京）　自作の神棚のコンテストを開催するのはどうでしょう。鳩ヶ谷には、住宅公園みたいなところがあるんですけれど、そういうしゃれた雰囲気のところで行ってみてはいかがでしょう。

司会　コンテストを開催することで、部屋の様式に合った自由な発想の神棚を作ることができるということを認知してもらう機会にはなるかもしれませんね。

　神棚自体いつから存在するかということが問題であると思うんですけれど、元来、神具屋さんなどで販売されていたわけではないはずです。髙橋さん、古い神棚を多くごらんになっていると思いますが…。

髙橋　本来的には棚だけでもよかったんです。御神札を必ず宮形の中に納めなければいけないというものではなくて、実は明治からの御神札に対する感覚と江戸時代までのそれとは違っていまして、正に家の中の家族をお祓いする道具としての御神札の置場だったんですね。

　逆に今は、伊勢神宮や他の神社を拝む対象として、考えが変わってきていますので、そもそも意味合いが少し変化しているわけです。この辺りを理解していただくと、御神札をお祀りするということのハードルが高くないことが分かっていただけると思います。

司会　早い段階の神棚は自作のことが多かったんでしょうか。

髙橋　専用のものでなくても、簡単な板の上に載せられればよかったんですから、小さな板があれば長屋の端の鴨居の上にでもお祀りできたわけです。

細田（京）　神社にお祓いに伺うと、よく待合室のようなところに通されますよね。そういうところに、色々なスタイルの神棚を展示してあったり、もしくは写真などを貼っていただいたりしてあれば、参拝の方々には、受け入れ易くなると思います。

司会　ありがとうございます。先程の「おふだ立て」ですが、手島様の場合はご自分の部屋に個人の御神札としてお祀りされている。本来はその家の中心になるような居間などに、その家全体の守り神としてお祀りされるのが、一般的であると思いますが、この、いわば自分専用の御神札という概念に対してどのようにお考えになりますでしょうか。

細田（京）　私たちがマンションに住んでいる時には、自分の御神札は自分の人形ケースの中に入れてお祀りしていました。子供に羽子板をいただいたら、その子の御神札は、その羽子板のケースの中にお祀りするというふうに…。

　今はうちの神棚としては一体ですが、私の御神札は二階のリビングに、彼の御神札は、一階の神棚にそれぞれいつもいる場所にお祀りしています。

司会　荒井様はいかがですか。

荒井　神棚の意味がよく分かっていなかったんですけど、家に神棚と氏神様があるんですが、どちらが家を守っていただいているのかなあとおもうんですけれど…。

司会　そのお宅によっていろんな経緯があると思うので、一概には言えないと思いますが、例えばあるお宅は、先祖が源氏なので、八幡様をお祀りしているとか、また農家なので、農業の神様のお稲荷様をお祀りしているとか、家ごとの歴史を反映しているんだと思います。これに対し、神棚は、伊勢神宮の御神札を中心に、お住まいの地域の鎮守様の御神札などをお祀りするものです。

　そのお宅をお守りいただくには違いがな

いのですが、お招きする神様が異なっているということだと思います。

それで、神棚の中心にお祀りするのが伊勢神宮の御神札であるわけですが、このお宮の性格を誤解を恐れず簡単に説明すると、先ず家をお守りいただくのが神棚、そして地域をお守りいただくのが鎮守様、日本全国をお守りいただくのが、総氏神ともいえる伊勢神宮なわけです。

実は、この伊勢神宮は二十年に一回、すべてのご社殿をすべて造り替える式年遷宮というお祭りがあります。次が平成二十五年に予定されており、六十二回目、実に一三〇〇年を越える長い伝統があります。

ここで、皆様から伊勢神宮に対する印象や思い、お考えがあればお尋ねしたいと思います。

手島様どうでしょうか。手島様は、秩父神社の氏子青年会に入っていただいているので、割と若い人の中では神社との関係が深くて、知識的にも、造詣が深いと思います。

手島　伊勢神宮は実は、一昨年愛知万博の時にお参りさせていただいて、秩父神社さんの宮司さんの計らいで、御垣内といって、中の神殿の近くまで入らせていただきました。杜の中にあって、神々しく、いかにも日本の故郷という感じがします。日本全国を守ってくれているという、口では表せない、何とも神秘的な思いになります。

神棚であったり、氏神様であったり、私たちは幾重にもお守りいただいているんだなあと感じます。うちは、神葬祭なので、神棚の下に祖霊舎があります神棚を拝むと御先祖様も拝めるという特典が付いてます。（笑）

今日お話を伺っていて、知らないということが多いんですよね。その対策を神社さんにもっととっていただくと、神社なり神棚に対する気持ちが向いて来ると思います。

司会　細田ご夫妻様は。

細田（知）　お伊勢様に対しては、雲の上とか、象徴とか中心とかのイメージを単純に持っています。対して氏神様に関しては、非常に身近な神様であり、会社で言ったら直属上司みたいな感覚があります。

司会　最後に、神社に対するご意見あるいはご希望などがありましたら伺いたいと思います。

中原　なるべく神社様が身近な存在だと持っていってもらえばいいと思います。普段はなかなか近づきがたく感じますので、もっと身近な存在になれば、更に信仰する人も増えると思います。

守屋　最近、昔からの神社を中心とした行事に参加する人が少なくなってきていると思います。昔のいいところを存続して行くことが、大事だと考えます。

荒井　神社をどのような時に頼るか、と考えてみると、最初に自覚したのは、子供のお宮参りです。昔からお付き合いはあったんですが、それから神社によく行くようになりました。若い人は、子供に関わることから神社の存在が大きくなるんだと思います。

そういう、機会を捉えて神社なり神棚なりの説明をしていただければ、受入れ易いのではないかと思います。

細田（京）　鳩ヶ谷の氷川様は、小学校の隣にありまして、私もその小学校を卒業したんですけれども、子供の頃は、いつもお参りに行ってから家に帰るのが習慣でした。だから子供の内から神社に触れるということが大事だと思います。

手島　秩父は神社を中心に街が成り立っているようなところがあるんです。秩父夜祭という大きなお祭りの他、一年を通して神社と接する機会が多いんです。

その中で、私の入っている氏子青年会は、年に一度「柞の杜フェスティバル」と銘打って、子供を対象とした、神社に親しんでもらう催しを行っています。我々は小さいときから神社に親しんで育ったんだから、それを次の世代に繋いで行こうとする行事です。

秩父神社は機会あるごとに、氏子との接点を設けようとしていただいているので、秩父の人は子供から大人まで、お参りしやすい神社だと思います。

司会　皆様、本日は大変貴重な時間をお割きいただき、誠にありがとうございました。

（二月十八日　於　川越氷川会館）

命の重み、家族の絆、国家の尊厳

参議院議員　比例代表（全国区）選出
神道政治連盟国会議員懇談会副幹事長
ありむら　治子

埼玉県神社庁・県内の鎮守の杜をお守り下さっている皆さま、いつも温かいご指導や御交誼を賜り、本当にありがとうございます。

昨年秋には、秋篠宮家に親王殿下がご誕生遊ばされました。私達国民の大きな慶びとなりました悠仁さまのお健やかなご成長を、心から祈念申し上げます。その一方、年末にはこの一年を象徴する言葉として、「命」が選ばれました。日本の将来を担うはずの子供達の命が脅かされ、子供をとりまく事件や事故が相次ぐ中で、かけがえのない命の尊さに、改めて私達国民が向かいあった一年でもありました。

守りたい知恵の伝承

年齢を表現するには、主に「満○○才」と、「数えの歳」という二つの方法があります。自ら子どもを授かって「十月十日」の妊娠期間を経て実感しましたが、「満○○才」という現在の主流は、この世に誕生してからの実年齢の数え方として分かりやすい一方、伝統的な「数えの歳」というのは、赤子がお腹の中に宿っている時から、その命の営みを認めているという歳の数え方であり、目には見えないけれども、母親のお腹の中で懸命に育っている命の鼓動に対する讃歌なのだと感じるようになりました。

率直なところ、それまで「数え歳」の概念は、合理的ではなく面倒だと思っていましたが、自らの妊娠・出産を境に、これら日本の慣習には、実はとても実践的な哲学があり、超音波健診などなかった時代から、既に科学的な智見が込められていたのかもしれない…と、日本の風土の中で培われた知恵の伝承に、共感と納得をすることが多くなりました。

でもここで問題になってくることがあります。核家族での住まいが続き、とかく子育て中の孤立感が指摘される若い世代に対して、「おじいちゃんの格言」「おばあちゃんの知恵袋」など子育てに役立つ実践的なヒントを、どう伝承していくかという点です。一族だけでは難しくなってきたこの「タテ糸における知恵の伝承」を、世代間互助というテーマの中で地域が担わねばならない時代です。

日本の歴史始まって以来、初めて経験する人口減社会において、地方の自立が問われる今、いかにして「先人から私たち、私たちから次の世代」という世代間互助の精神や知恵を日々の暮らしに活かすのかという課題は、どの世代も参画できる活力ある街づくり、またその集合体としての地域・国柄をかけた大きなテーマです。現在、全国的に講演をさせていただく中で、各地域の皆さまと膝をつき合わせてアイディアを温め、具体的実践例を広げていく活動を続けています。

連綿と受け継がれる命のリレー

子供達をとりまく現象を直視するたび、私たちは民族としての命の尊さをもっと信念と使命をもって、次世代に伝えるべきではないかという思いにかられています。現在、子供達の多くは、自分の命と体は、自分のものだと認識しています。自らの存在に対して主体的な思いを持つことは、当然大事ですが、「自分だけのもの」と思ってもらっては困ります。自らの命や身体に対して尊厳を感じられない子どもが、他の子どもの命に敬意を示せるはずもありません。

今、私達一人ひとりが三七度の体温をこの瞬間も保って存在する背景には、お父さんお母さん二人、おじいちゃんおばあちゃん四人、ひいおじいちゃんひいおばあちゃん八人、その両親一六人、そのまた両親三二人、六四人、一二八人…私たちの想像をはるかに超える多くの先人が、幸多かれと祈りと命を繋いでくれた礎があります。平和の時も戦乱の時にも小さな命を両腕で守り、食べたいものを親は食べずに子どもの口に運び、ひた走りに走って命を紡いでくれた――先人の一人でも欠ければ、現在、このような形で自分の命がここに存在することはありません。

そんな連綿と受け継がれてきた命のリレーの中間走者としてタスキをかけ、バトンを

担っているのが私達だという生命観こそ日本の知恵であり、時間軸を持ったこの「社会のタテ糸」の存在を、もっともっと自信を持って伝えるべきだと考えるようになりました。「幸多かれ」と願ってくれた多くの先人の命の営みがあって、自分の命が存在することを実感する子ども達は、授かった自らの命が自分だけのものではないことを学び、自他の命を尊ぶ基盤を創っていくのだと思います。

どん底に陥った時にも、「苦しんでいるのは今の自分だけではない」と感じる中で先人の労苦に思いを馳せ、自らの命が生まれ出た奇跡と有難さに気付いた時にこそ人は、願わくば、その命のリレーのタスキを、次の世代にもつなごうとするのでしょう。経済的支援ばかりが議論される少子化対策も、このような命と祈りの伝承という視点でまず語られるべきでありましょう。

北海道で小児科医をお務めの田下昌明先生は、私が尊敬している「おじいちゃん先生」のお一人です。いわく、「僕が孫達にできる最後のプレゼントは、彼らの目の前で息を引き取ることだと考えています。私の死に臨んで、人生が有限だと悟った幼い孫達は、その後きっと有意義な人生を送ってくれるに違いないでしょう」と教えて下さいました。命の誕生は産婦人科で行われ、命の臨終も専門の施設で対応されることが多い昨今、子ども達が、命の尊厳を間近で実感することが少ない時代ゆえの、おじいちゃんとしての使命を感じていらっしゃるのでしょう。

現在、二十代～四十代前半を主な購読者層にしている女性誌では、「子どもをいつ作る？」「産む？産まない？―あなたの選択」というような見出しの特集がしばしば組まれますが、やはり新しい命は「作る」「作らない」ではなく、「授かる」ものなのだと思います。たった一語の違いですが、新しく誕生しようとする命を、みんなで応援し励まし、人格を持った一人の人間を温かく祝福するという社会の意図を育んでいくためにも、命の尊厳に対して積極的な価値を見出す言葉を、広く使っていきたいものです。

神さまから授かった命を育む

申すまでもなく、命への讃歌は、神社と深い関わりがあります。まさに、母親のお腹の中で、心臓が動き始めたばかりの小さな命を育む臓器を「子宮」と言い、妊娠したことを「お宮に灯がともった」という表現もあります。雄大な自然の中で、連綿と受け継がれてきた命の営みを尊び、守ることこそ、全国のお宮が地域地域で育んで下さってきた「民族としてのこころ」ではないかと、私自身も母親になって、強く感じています。そして、祖先崇拝から引き継いだこの知恵を、現代の教育観・家庭観に活かしていくことが、子供達の命を健全に守り育てることにつながるとの確信を強めます。

最近、「子育ては損だ」「自分の生活を子どもに乱されたくない」と言い切ることが、ごく一般的な考え方のように報道されている風潮がありますが、損得を超えた価値や大義・使命を実感する時にこそ、人は生きがいを覚えるのかもしれません。子育て経験者が「…でも子供って、とってもかわいいよ！時々憎くなるけど、やっぱり何にも代えがたい、有難い存在だよー」と自信と勇気を持って周囲の人に微笑み、後輩の揺れる乙女心や不安の解消に、さりげなく後押しをしてあげることも、社会に働きかける立派な少子化対策でありましょう。民族として、命を尊ぶ社会にしたいからこそ、「命をはぐくむことの積極的な価値」を私たち自身が日々の言葉で語っていきたいものです。

夏に行われます第二十一回参議院選挙　比例代表（全国区）に向けて、埼玉県神社庁を代表して庁長薗田稔先生、本部長中山高嶺先生をはじめ、全国の神道政治連盟から推薦を賜りました。「神道の精神を国政に、日本の心を政策に」と心に刻み、これからもまっすぐに命の重み、家族のきずな、国家の尊厳を守る活動を全力で進めて参ります。神社関係の同志の皆様から賜っておりますご支援に心から感謝申し上げ、神社界ご推薦の名に恥じないよう、全霊をかけて歩を進めて参ります。どうかともに歩んで下さいますよう、宜しくお願い申し上げます。

今年七月に施行される参議院選挙比例代表（全国区）に向けて、神道政治連盟は、ありむら治子さんを推薦し、支援しています。

教育問題

参議院議員　内閣首相補佐官
神道政治連盟国会議員懇談会副幹事長
山谷　えり子

多くの国民の期待をうけ誕生した安倍内閣が発足し、はや五ヶ月がすぎようとしている。

新憲法制定、伝統文化を大切にする、家族の価値や地域のあたたかさの再生、世界へむけた日本の魅力や強さをいかした主体的外交など、今まで以上の戦略的で積極的な政策に期待感が高まっている。

なかでも教育再生を最重点項目にすえ、閣議決定により設置された「教育再生会議」で第一次報告が一月にとりまとめられた。

この第一次報告は主に初等中等教育を中心に喫緊に対応すべき問題を『七つの提言、四つの緊急対応』として提言された。

《七つの提言》

一．「ゆとり教育」を見直し、学力を向上する。

二．学校を再生し、安心して学べる規律ある教室にする。

三．すべての子供に規範を教え、社会人として基本を徹底する。

四．あらゆる手だてを総動員し、魅力的で尊敬できる先生を育てる。

五．保護者や地域の信頼に真に応える学校にする。

六．教育委員会の在り方そのものを抜本的に問い直す。

七．「社会総がかり」で子供の教育にあたる。

《四つの対応》

一．暴力など反社会的行動をとる子供に対する毅然たる指導のための法令等で出来ることの断行と通知等の見直し【十八年度中】。

二．教員職員免許法の改正【平成十九年度通常国会に提出】。

三．地方教育行政の組織及び運営に関する法律の改正【平成十九年度通常国会に提出】。

四．学校教育法の改正【平成十九年度通常国会に提出】

ゆとり教育の見直しについては、詰め込み教育に戻すのですかとマスコミからたびたび問われるが、私は「そのような振り子のような考え方ではありません。知・徳・体のバランスが大切。よく学び、よく遊べ。ゆとりを忘れず、基礎をしっかり、反復学習を軽視しないように。また世阿弥や千利休が説いた〝守破離〟という教えも大切です」と答えている。

「守破離（しゅはり）」とは、鍛錬や芸の道の修行について言われることだが、〝守〟とは、先生の教えをひたすら反復学習、繰り返して型を身につけること。〝破〟とは型を破り、工夫を凝らして独創性、オリジナリティを追求すること、そして、〝離〟の段階で、型に縛られず、自由で自在の境地に遊ぶという芸道、武道、茶道などの芸道論の中で、今も大切にされ実行されている考え方である。

年令と段階にふさわしい学びがなければ個性も育たず、名人の境地は望むべくもない。

安倍首相は、すべての子供たちに活力とチャンスと優しさに満ちあふれ、自由で温かな雰囲気のもとで教育が行われるよう教育再生のための三法案を提出するよう指示された。これまでのやり方なら数年間を要することでもあろうが、伊吹文部科学相は「教育法制度整備推進本部」を発足し、自ら本部長となり推進してくださっている。また、中教審もこれまでの議論を進めて緊急対応してくださることとなった。

昨年の教育基本法改正で、〝豊かな情操と道徳心〟〝公共の精神〟〝伝統と文化の尊重〟〝家庭教育、幼児教育〟〝宗教教育に関する一般的な教養〟などの重要性が条文化された。再生会議の報告書は、国語、歴史、道徳教育などの充実と、奉仕、自然体験、長期宿泊体験、職業体験、文化・芸術・ものづくり・ふるさと学習など価値観を育てるなどの読書、民話や神話・おとぎ話、童謡、茶道・華道・書道・武道などを通じて徳目や礼儀作法、形式美・様式美を身に付ける機会の提供も求めた。

教育再生は地域の再生でもある。社会総がかりで、産業界、地域社会が一体となり子供たちを育成してほしい。

四月から「放課後子どもプラン」「土曜スクール」が実施され、全国二万三千校の全公立小学校に一校あたり約五〇〇万円の予算がつくこととなるが、まだ一万校しか名乗りをあげていない。この活動は異年齢交流や集団活動によって、子供を心豊かにたくましく育てるための「根っこ」となるものであり、学習意欲や学力・体力・創造力の向上に資する期待も大きい。〝どの子もわが子〟の気持ちで多くの人に参加してもらいたい。

㈶伊勢神宮式年遷宮奉賛会埼玉県本部設立

第六十二回伊勢神宮式年遷宮を平成二十五年に控え昨年四月、(財)伊勢神宮式年遷宮奉賛会（会長　山口信夫、日本商工会議所会頭）が設立、続いて三重県本部を皮切りに順次各都道府県の地区本部が結成され、いよいよ本格的な奉賛活動が開始された。

本県においては、去る二月七日、大宮「ラフォーレ清水園」で、来賓として北自川道久神宮大宮司、小串和夫神社本庁常務理事（久邇邦昭統理代理）、宅崎俊明式年遷宮奉賛会事務局長（山口信夫会長代理）、轡田勝繁神社本庁本宗奉賛部長らの臨席のもと、県内経済界をはじめ農協・医師会・神社関係者など約百名が出席し、埼玉県本部設立総会が開催された。

総会では薗田稔神社庁長の挨拶に続いて井上久総代会長が議長を務め、経過報告・県本部設立趣旨・役員選任・募財計画・予算等についてすべて原案通り議決。本部長に埼玉県商工会議所連合会の川本宜彦会頭が就任、副本部長に十名の各構成団体の代表等が選任された他、役員・評議員・顧問・参与それぞれが委嘱され県本部の組織が決定した。また県本部設立にあたり標札を作成、県内九支部に手交した。

式年遷宮奉賛会埼玉県本部の設立を受けて、募金活動推進要綱に基づき、今後実際の推進にあたる支部の結成を次のような手順で進めることとした。

一、県本部募財目標額

六億三千万円

（内訳、九支部合計六億円、県本部三千万円）

※前回（第六十一回遷宮）目標額　三億円

二、支部の結成

支部の結成は、神社庁の九支部を基準とし、本年十月中の完了を目標とする。

三、募金の期間

平成十九年四月から平成二十三年三月末まで。

（税制上の優遇措置期間）

※支部の募金計画は、凡そ三年以内に完了する方針のもとに進めるものとする。

四、支部事務取扱説明会の開催

平成十九年四月を予定

（埼玉県本部事務局長　前原利雄）

本部長挨拶（要旨）

式年遷宮奉賛会埼玉県本部長　川本宜彦

ご高承の通り、式年遷宮は二十年に一度社殿を新造し神様にお遷り頂くお祭りであり、一千三百年の歴史と伝統を有する世界に誇るべき国家的行事であると同時に、その時代における最高の職人・技術者によって伝統工芸の技術を未来に継承していくという、極めて文化的な意義を有しております。

わが国経済は、「いざなぎ景気」の期間を超え全体としては明るさを増しているものの、地域・業種間の格差は依然として存在しており、なお相当数の企業が景気回復を実感できない状況にありますが、今回で六十二回を数え、来る平成二十五年にご斎行の運びとなりますご遷宮を実現させるためには、国民各層並びに企業の方々から広く奉賛協力を仰がねばなりません。是非、関係各位の格別のご支援・ご協力を賜りますよう切にお願い申し上げますと共に、ご遷宮の滞りない進捗と、皆様のご健勝とご多幸を祈念申し上げます。

神話の国研修旅行報告 ～熊野編～

西村勉

二月十九日から二十一日、神社庁教化委員会企画の神話の国研修旅行「熊野三山参拝と熊野古道、奈良・大和路を訪ねて」が行われました。立春を過ぎた日差しは暖かく、三日間とも素晴らしい天候となりました。参加者数二十八名、楽しい研修となりました。

【第一日目】　羽田発九時五分→南紀白浜空港→南方熊楠記念館→中辺路（昼食）→熊野本宮大社（正式参拝）→神倉神社→熊野速玉大社→桟橋→那智勝浦温泉（泊）

雪化粧の富士を眼下に見て約一時間の空の旅、南紀に着くと熊野交通のバスが待ち受けておりました。

昼食後は、いよいよ熊野本宮大社詣となりました。主神は家津御子大神です。特殊神事は「八咫烏神事」、八咫烏の可愛いマークが印象に残っています。神倉神社では、五三八段の石段を元気に登り、皆まだ若いとすっかり感心しました。熊野速玉大社は朱塗りの美しいご社殿です。なぎの老樹とおがたまの木、貴重な御神木を眺めながらの参拝となりました。おがたまの花を初めて見ました。

【第二日目】　那智の滝・飛瀧神社→熊野那智大社・青岸渡寺→熊野古道散策→新宮市→十津川温泉（昼食）→谷瀬のつり橋→賀名生の里歴史民俗資料館→橿原神宮（正式参拝）→奈良市内（泊）

那智の滝の落差は一三三メートル、崇高さを感じさせるこの滝に神武天皇が大巳貴神を祀りました。仁徳天皇五年、社殿を那智山中腹に移し夫須美大神を祀られたのが熊野那智大社の起こりだそうです。

熊野の荘厳な御社殿・巨木が立ち並ぶ熊野古道・神秘的な山々等、まさに世界遺産に登録された所以であると実感しました。

橿原神宮は畝傍山の麓に鎮座する雄大なご社殿です。自然と敬虔の念が沸いてくるような気がしました。ご祭神は神武天皇・媛蹈鞴五十鈴媛皇后。一月十一日・紀元節当日が例大祭の日だそうです。

【第三日目】　橿原神社→山の辺の道→大神神社→大和神社→石上神宮（正式参拝）→大和郡山（昼食）→日前神宮・國懸神宮→関西空港→羽田

やわらかな春の光、紅白の梅の花、古都奈良を実感させる「山の辺の道」でした。

大神神社にご本殿は無く、三輪山を神体山として鳥居を通して拝するもので、原初の神祀りが伝えられています。大和神社では、戦艦大和や映画「男たちの大和」との関わりを知り驚きました。石上神宮では正式参拝です。

崇神天皇の御代、災厄が度々あり、国家鎮定の神事を行ったそうです。日前神宮・国懸神宮は、最後の参拝地。天照大神が天の岩戸にお入りになった時、最初に作られた銅鏡が両神宮の鏡だそうです。

紀伊半島を隈なく巡る神社尽くしの旅でした。研修と親睦の素晴らしい三日間でした。

（教化事業部員）

神話の旅　熊野本宮大社にて

庁務日誌抄

【12月】
4日　伊勢神宮新穀感謝祭　前原参事参列　於　神宮
7～8日　高麗澄雄宮司通夜・葬場祭　於　旧高麗家住宅
庁祭式講師研修会　竹本多恵子助教受講　於　皇學館大學
11日　正副庁長会・役員会（轡田本庁本宗奉賛部長来埼）　於　大宮「清水園」
13日　伊勢神宮式年遷宮奉賛会埼玉県本部設立準備会（県経済五団体・農協中央会）　蘭田庁長、前原参事、渡邊主事出向
14日　教化委員会正副部長会　於　大宮区内
木田本庁教化部長他一名来埼　於　大宮「清水園」

平成十九年
【1月】
12日　埼玉県宗教連盟新年懇親会　蘭田・前原・宮澤・渡邊出席　於　大宮「一の家」
15日　伊勢神宮式年遷宮奉賛会埼玉県本部設立準備会　蘭田庁長以下役職員八名出席　於　パレスH大宮
16日　正副庁長会　神社庁新年互礼会　八〇名参加　於　大宮「清水園」
22日　神道婦人会新年会　前原参事出席　於　大宮「東天紅」

【2月】
7日　正副庁長会・庁役員会　伊勢神宮式年遷宮奉賛会埼玉県本部設立総会　一〇〇名出席　於　大宮「清水園」
9～10日　神政連一都七県本部長・幹事長・事務局長会　中山本部長、曽根原幹事長・前原事務局長出席　於　山梨・甲府
13日　宗教法人研修会　渡邊主事参加　於　さいたま共済会館
16日　大里・児玉支部合同教養研修会　四三名受講　千島直美講師、前原参事出向　於　熊谷・高城神社
19～21日　「神話の国」研修旅行　二八名参加　宮澤主事、高橋学芸員出向　於　熊野・奈良方面
20～21日　一都七県神社庁連合会総会　蘭田庁長以下一五名出席　於　群馬・伊香保
21日　神政連臨時選対会議　中山、曽根原、前原出席　於　本庁
23日　北足立支部教養研修会（祭祀舞）　一五名受講　於　大宮・氷川神社
26日　神政連埼玉県本部大会　一五〇名参加　於　大宮「清水園」
27日　南埼玉支部祭式研修会　一二名受講　於　さいたま市岩槻区・久伊豆神社
埼神教「教育講演会」七〇名参加　於　大宮・氷川神社「呉竹荘」

【3月】
4日　神宮大麻頒布モデル支部対策担当者会　櫻井北足立支部長、前原参事出席　於　伊勢
5日　神宮大麻頒布終了祭・同頒布推進会議　蘭田庁長、櫻井支部長、前原参事参列　於　神宮
伊勢神宮式年遷宮奉賛会地区本部事務担当者会議　前原参事出席　於　神宮
4～9日　一都七県神社庁中堅神職研修会第十一次（乙）（群馬県当番）開講式　中山副庁長出席　原　泰明、岸野克巳、神島歩受講　於　明治神宮会館
7日　北足立祭式研修会　二四名受講　於　大宮・氷川神社
7～9日　祭祀舞普及研修会　本県二名受講　於　神宮
10日　塙瑞比古大人命を偲ぶ会　蘭田庁長出席　於　笠間
10～11日　祭祀舞講師研修会　江森講師受講　於　神宮
10～13日　神政連海外研修（台湾）　中山、井上、曽根原、寺田、蘭田建参加
13日　教養研修会　一一六名受講　於　川越・「氷川会館」

平成十八年度神社本庁功績表彰（敬称略）
三峯神社宮司　中山　高嶺　第二条第一号
久伊豆神社宮司　矢島　忠男　第三条第二号
寶登山神社禰宜　曽根原正宏　第三条第二号
八幡神社宮司　前原　利雄　第三条第二号
箭弓稲荷神社役員　澤田　行雄　第三条第三号
川圦神社役員　石川　元一　第三条第三号
久伊豆神社役員　大野　光政　第三条第三号
（二月三日付）

身分昇進（敬称略）
【二級上】
三峯神社禰宜　野上　修
埼玉県護國神社禰宜　榊原　好允
氷川神社宮司　櫻井　守年
八幡神社宮司　前原　利雄
（三月十日付）

【二級】
八幡神社宮司　近藤　壽行
熊野神社宮司　石山　寿昭
出雲祝神社宮司　西村　勉
氷川神社宮司　淵泉　芳明
足高神社宮司　高野　義美
神明神社宮司　加藤　久安
氷川八幡神社権禰宜　石山　薫
高麗神社宮司　高麗　文康
三峯神社権禰宜　朝日　則安
寶登山神社権禰宜　小野田陽一
金鑽神社禰宜　金鑽　俊樹
氷川神社権禰宜　馬場　直也
（三月一日付）

任免辞令
任
12・20　田村　哲夫　(本)　貴船神社宮司　(大　里)
1・20　高麗　文康　(本)　高麗神社宮司　(入　間)
2・20　小松　郁子　(新)　小松神社禰宜　(北埼玉)
3・1　坂本　顕一　(新)　定峰神社禰宜　(秩　父)
3・15　山中日出谷　(新)　岩根神社禰宜　(秩　父)

転任
1・25　石井　嘉久　(本)　春日神社宮司　(入　間)
越生神社宮司より転任

高麗澄雄宮司を悼む

野々宮神社宮司　野々宮　高成

あまりに突然のこととて暫し呆然と佇ちつくした。十二月二日の夕べ、高麗澄雄宮司がお亡くなりになったとの電話―秋の大祭のお祝いを持って伺ったのは確か十月十七日であったか。社務所からの帰り、駐車場拡張工事現場を、車椅子のまま見ておられ、「ここも少し拡げたいんだよ」などと話されたっけ。晴れた静かな日、そのお姿は今も鮮やかに脳裏に残っている。

高麗のお宮と私の所とは、獅子舞の笛の音の聞こえる距離にあり、代々おつきあいを頂いている間柄である。

申し上げるまでもなく、続日本紀、霊亀二年の条に高麗郡設置のことが記されてある。高麗家の始祖若光はその首長であった。以来、連綿と続いて来た高麗家、澄雄宮司は第五十九代の当主である。

さて、ご子息文康さんから葬祭につき、ご経歴の詳細を頂いた。私は改めてご功績の並々ならぬことに深い畏敬と感慨を覚えた。

高麗神社は、昭和十八年県社に昇格。当時の私の記憶では、その二、三年前頃から昇格への準備の境内地拡張、諸整備が行われたように思う。新潟から大勢の宮大工さんが来られたのを始め、工事担当の方々で大変な活況であった。十五、六歳の頃の川越中学生であった澄雄氏は、この盛況の直中にあって、遙かな家郷に寄せる歴史的感動に、さぞかし高鳴る胸の疼きを抑えることができなかったであろう。以来、境内は父君や氏子崇敬者の方々により年を追って整備された。澄雄氏はそうした昂りの中に國學院大學を卒えられた。

その矜持と言い知れぬ使命感が氏の超人的な業績となったのだ。教職にあった時代、子弟への教育姿勢の底に揺曳するものも、そうであったと推測する。

山河美しいお宮のたたずまいは、古い歴史と融即し、政財界、韓国の要人、著名人、文人等の参詣がつづいた。お宮はいつか「出世明神」と崇められ、社頭の賑わいは更に盛んになった。教職を退いてひたすら宮仕えに専念されてよりの澄雄氏は、更にも己が生命の限りを尽くされた。社務所、参集殿を始め、神楽殿、駐車場拡張…御垣内の植栽、高麗家住宅の国指定重要文化財に伴う諸整備、墓域の荘厳…と実に計画的にお仕事を進められた。

平成四年、嘱望されて埼玉県神社庁長の要職に就かれた。私達飯能分会の神職、氏子の人々からは、ふるさとのお宮からこのような栄誉にと、大変な喜びであった。数々のご業績は積もり積もって神職身分特級に、高麗神社は「別表神社」に昇格となった。奥武蔵の山ノ辺のお宮が、かくも栄ある座に昇ったのだ。少年の頃の、古いお宮を知っている私には、その喜び感慨は計り知れない。如何に祖霊に報いて余りあるものであったか。

澄雄氏は、やがて迎える「高麗建郡一三〇〇年」のことに思いを馳せておられた。その第一の事業として、『高麗神社・高麗家文書目録』（六五三頁余）を刊行された。何と、発行の日は平成十八年十一月十四日、実にご逝去の半月前であった。最後の最後までのお仕事、これが氏のかけがえのない記念物となった。

嗚呼！高麗澄雄宮司、その御魂よ、天翔り国翔り坐して、日の若宮の神廷（かむにわ）に、厳々（いついつ）しき神霊となり給いて、守り幸え給え。